

勉誠社

中世文学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード: 3c321e229d
(期限: ~2023年12月22日)

謹啓

日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊・近刊書籍をはじめ、全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: 3c321e229d 期限: ~2023年12月22日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！
未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費／私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・3000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス（※ 海外への配送に関しては、実費を頂戴します）

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
学会会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

書名	編著者名	刊行年月	ISBN	税込価格	割引価格	ご注文
【近刊・予約受付中】本朝麗藻詳注	柳澤良一 著	2023/10	39030	30,800	24,600	
【新刊】日本人の読書―古代・中世の学問を探る	佐藤道生 著	2023/09	39033	13,200	10,600	
【新刊】重要文化財 東福寺五百羅漢図 修理と研究	石川登志雄 編	2023/10	37010	24,200	19,400	
【新刊】物語る仏教絵画―童子・死・聖地	山本陽子 著	2023/10	37011	11,000	8,800	
【新刊】紫式部伝―平安王朝百年を見つめた生涯	上原作和 著	2023/10	39035	5,940	4,800	
【新刊】紫式部集の世界	廣田収・横井孝 編	2023/07	39031	10,780	8,600	
【新刊】東アジアの王宮・王都と仏教	堀裕・三上喜孝・吉田歓 編	2023/10	32032	10560	10,600	
野村太郎の狂言入門	野村太郎・杉山和也 著	2023/07	37005	2,464	2,500	
日本と東アジアの〈環境文学〉	小峯和明 編	2023/07	39018	13,200	13,200	
中国古典をどう読むか―規範からの逸脱、規範への回帰	下定雅弘 著	2023/06	39027	3,344	3,300	
輞川図と蘭亭曲水図―イメージとテキストの交響	野田麻美・静岡県立美術館 編	2023/05	37009	8,360	8,400	
江戸時代の貸本屋―庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点	長友千代治 著	2023/05	39029	4,400	4,400	
モノと権威の東アジア交流史―鑑真から清盛まで	シャルロット・フォン・ヴェアシュア 著	2023/04	32022	4,224	4,200	
俊頼髓脳全注釈	家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・舘野文昭・福田亮雄 著	2023/03	39025	13,200	13,200	
黄泉の国との契約書 東アジアの買地券	稲田奈津子・王海燕・榊佳子 編著	2023/03	32030	3,344	3,300	
江戸時代前期出版年表〔万治元年～貞享五年〕	岡 雅彦 編	2023/03	32029	28,160	28,200	
深草瑞光寺所蔵 元政上人資料集	岡雅彦・落合博志・桑名法晃・長田和也・中前正志・那須陽一郎・原雅子・村木敬子 編	2023/03	31013	17,600	17,600	
近世京洛寺院の学問とネットワーク						
鎌倉時代禅僧喫茶史料集成	舘隆志 著	2023/02	31014	11,880	11,900	
上杉本洛中洛外図屏風の研究 桑実寺縁起絵巻と共に	小谷量子 著	2022/09	32020	7,920	7,900	
伝達と変容の日本建築史―伝わるかたち／伝えるわざ	野村俊一 編	2022/7	35001	3,080	3,100	
史学科の比較史―歴史学の制度化と近代日本	小澤実・佐藤雄基 編	2022/05	32017	6,160	6,200	
中世東国日蓮宗寺院の地域的展開	佐藤博信 著	2022/05	32016	10,560	10,600	
中世神道入門―カミとホトケの織りなす世界	伊藤聡・門屋温 監修	2022/04	31006	3,344	3,300	
宋版一切経（福州版）調査提要―本源寺蔵の調査を通して	福州版一切経調査研究会 編	2022/03	31010	5,720	5,700	
ことば・ほとけ・図像の交響―法会・儀礼とアーカイヴ	近本謙介 編	2022/03	31009	10,560	10,600	
宗教遺産テキスト学の創成	木俣元一・近本謙介 編	2022/03	31008	13,200	13,200	
中国道教美術史 漢魏晋南北朝篇	李松 著／土屋昌明・齋藤龍一 監訳	2022/02	37001	30,800	30,800	
コレクションとアーカイヴ―東アジア美術研究の可能性	板倉聖哲・塚本麿充 編	2022/01	37000	8,360	8,400	
合戦図 描かれた〈武〉	中根千絵・薄田大輔 編	2021/12	32013	14,080	14,100	
聖徳太子信仰とは何か	榊原史子 著	2021/12	31007	3,344	3,300	
玄奘三蔵―新たななる玄奘像をもとめて	佐久間秀範・近本謙介・本井牧子 編	2021/12	31005	10,560	10,600	
室町文化の座標軸―遣明船時代の列島と文事	芳澤元 編	2021/10	32011	8,624	8,600	
説話の東アジア―『今昔物語集』を中心に	高陽 著	2021/09	39004	10,560	10,600	
日本古代の仏教者と山林修行	小林崇仁 著	2021/08	31003	10,560	10,600	
もう一度読みたい日本の古典文学	三宅晶子 編	2021/07	39001	2,112	2,100	
創られた由緒―近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/06	31002	7,040	7,000	
中世寺院の仏法と社会	永村眞 編	2021/06	31001	10,560	10,600	
パブリック・ヒストリー入門―開かれた歴史学への挑戦	菅豊・北條勝貴 編	2021/05	82254	4,224	4,200	
戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/02	22301	7,920	7,900	
中世の博多とアジア	伊藤幸司 著	2021/02	22300	8,360	8,400	
増補改訂新版 日本中世史入門―論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/02	22280	3,344	3,300	
日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/03	20073	6,160	6,200	
南岳衡山と聖徳太子信仰	阿部泰郎・吉原浩人 編	2018/9	21046	6,160	6,200	
金沢文庫蔵 国宝 称名寺聖教 湛睿説草 研究と翻刻	納富常天 著	2018/06	28042	14,080	14,100	
中世古今和歌集注釈の世界―毘沙門堂本古今集注をひもとく	人間文化研究機構 国文学研究資料館 編	2018/03	29158	11,440	11,400	
深草元政『草山集』を読む―近世初期学僧のことばと心	元政庵瑞光寺 川口智康 編	2017/03	21040	4,224	4,200	
孝の風景―説話表象文化論序説	宇野瑞木 著	2016/03	29118	13,200	13,200	
称名寺聖教 尊勝院弁曉説草 翻刻と解題	神奈川県立 金沢文庫 編	2013/10	22070	10,560	10,600	
東アジアの今昔物語集―翻訳・変成・予言	小峯和明 編	2012/06	23012	11,440	11,400	
形成される教養 十七世紀日本の〈知〉	鈴木健一 編	2015/11	29110	6160	6,200	
陽明文庫 王朝和歌集影	国文学研究資料館 編	2011/12	27010	2,464	2,500	
■ 〈書物学〉 ■						
書物学 第24巻 100年くらい前の本づくり―近代日本の製本技	編集部 編	2023/08	30723	1,760	1,800	
書物学 第23巻 文化財をつなぐひと・もの・わざ □ 香雪美術館書画コレクションを支える装演修理の世界	編集部 編	2023/04	30724	1,584	1,600	

書物学 第22巻 禅寺の学問 相国寺・両足院の知の体系	編集部 編	2023/02	30722	1,584	1,600	
書物学 第21巻 活字 近代日本を支えた小さな巨人たち	編集部 編	2022/12	30721	1,584	1,600	
書物学 第20巻 追憶のサムライ 中世武士のイメージとリアル	横浜市歴史博物館 編	2022/10	30720	1,584	1,600	
書物学 第19巻 紙のレンズから見た古典籍 〈書物学〉	編集部 編	2022/02	30719	1,584	1,600	
書物学 第16巻 特殊文庫をひらく―古典籍がつなぐ過去と未来	編集部 編	2019/07	20716	1,320	1,300	
■ 〈アジア遊学〉 ■						
【新刊】 288 東アジアの「孝」の文化史 前近代の人びとを支えた価値観を読み解く	雫雪艶・黒田彰 編	2023/10	32534	2816	2,800	
282 列島の中世地下文書―諏訪・四国山地・肥後	春田直紀 編	2023/05	32528	2,640	2,600	
283 東アジアの後宮	伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 編	2023/06	32529	2,816	2,800	
284 近世日本のキリシタンと異文化交流	大橋幸泰 編	2023/07	32530	2,464	2,500	
285 渾沌と革新の明治文化―文学・美術における新旧対立と連続性	井上泰至 編	2023/08	32531	2,464	2,500	
287 書物の時代の宗教―日本近世における神と仏の変遷	岸本覚・曽根原理 編	2023/09	32533	2,464	2,500	
281 神道の近代 アクチュアリティを問う	伊藤聡・斎藤英喜 編	2023/03	32527	2,816	2,800	
280 都市と宗教の東アジア史	西本昌弘 編	2023/03	32526	2,640	2,600	
278 呪術と学術の東アジア 陰陽道研究の継承と展望	陰陽道史研究の会 編	2022/12	32524	2,640	2,600	
277 宋代とは何か 最前線の研究が描き出す新たな歴史像	平田茂樹・山口智哉・小林隆道・梅村尚樹 編	2022/11	32523	2,816	2,800	
276 村と民衆の戦国時代史 藤木久志の歴史学	稲葉継陽・清水克行 編	2022/10	32522	2,640	2,600	
274 呉越国 10世紀東アジアに華開いた文化国家	瀧朝子 編	2022/10	32521	2,816	2,800	
275 「唐物」とは何か 舶載品をめぐる文化形成と交流	河添房江・皆川雅樹 編	2022/10	32520	2,464	2,500	
273 日本の中世貨幣と東アジア	中島圭一 編	2022/09	32519	2,816	2,800	
272 対馬の渡来版経―護り伝える東アジアの至宝	横内裕人 編	2022/8	32518	2,816	2,800	
271 儒教思想と絵画―東アジアの勸戒画	水野裕史 編	2022/06	32517	2,816	2,800	
270 日本中世の課税制度―段銭の成立と展開	志賀節子・三枝暁子 編	2022/05	32516	2,464	2,500	
265 宗教芸能としての能楽	高橋悠介 編	2022/01	32511	2,640	2,600	
263 室町前期の文化・社会・宗教―『三国伝記』を読みとく	小助川元太・橋本正俊 編	2021/11	32509	2,464	2,500	
262 資料論がひらく軍記・合戦図の世界口 ―理文融合型資料論と史学・文学の交差	井上泰至 編	2021/10	32508	2,816	2,800	
261 古典は遺産か?―日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造	Edoardo GERLINI・河野貴美子 編	2021/10	32507	2,464	2,500	
259 書物のなかの近世国家―東アジア「一統志」の時代	小二田章・高井康典行・吉野正史 編	2021/08	32505	2,640	2,600	
256 元朝の歴史―モンゴル帝国期の東ユーラシア	櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉 編	2021/06	32502	2,816	2,800	
246 和漢のコードと自然表象―十六、七世紀の日本を中心に	島尾新・宇野瑞木・亀田和子 編	2020/04	22712	2,464	2,500	
244 前近代東アジアにおける〈術数文化〉	水口幹記 編	2020/03	22710	2,816	2,800	
221 世界のなかの子規・漱石と近代日本	柴田勝二 編	2018/08	22687	2,464	2,500	
211 根来寺と延慶本『平家物語』―紀州地域の寺院空間と書物・言説	大橋直義 編	2017/7	22677	2,112	2,100	
197 日本文学のなかの〈中国〉	李銘敬・小峯和明 編	2016/06	22663	2,464	2,500	
190 島津重豪と薩摩の学問・文化 ―近世後期博物大名の視野と実践	鈴木彰・林匡 編	2015/10	22656	2112	2,100	
174 中世寺社の空間・テキスト・技芸 ―「寺社圏」のパースペクティヴ	大橋直義・藤巻和宏・高橋悠介 編	2014/6	22640	2,464	2,500	

物語る仏教絵画

童子・死・聖地

◎ 目次

はじめに

序 神を見ることと描くこと——石清水八幡宮の事例を中心に

第一部 仏画と垂迹画における童子像

——神の家の小公達

- 一 粉河寺の童男行者信仰——フリア美術館蔵伝聖徳太子修業像を中心に
 - 二 春日の赤童子信仰
 - 三 童形の日吉十禪師像
 - 四 熊野曼荼羅の切目王子——神々のヒエラルキー
 - 五 越前系の白山垂迹曼荼羅——遊行寺本と国上神社本
- 第一部まとめ——童子像は借用され、読み替えられ、まとめられる

第二部 死をめぐる図像

- 一 ボストン美術館本菩提樹像は何を表すものか
 - 二 法華寺蔵阿弥陀三尊及童子図はどのように掛けられたか
 - 三 金戒光明寺蔵地獄極楽図屏風はどのように使われたか
 - 四 聖衆来迎寺本六道絵「天道」幅の主人公は誰か
 - 五 補論 天人から天女へ——なぜ五衰の天人が女性とされるようになったのか
 - 六 聖衆来迎寺本六道絵人道不浄相幅はなぜ女性なのか
 - 七 九州国立博物館本九相図巻の噺相は何に基づいたか
 - 八 長岳寺蔵六道十王図に天道は描かれていないのか
 - 九 斜め構図の兜率天曼荼羅図がなぜ描かれたのか
- 延命寺本と根津美術館本を中心に
- 第二部まとめ——鎌倉時代、死の文化は多様に展開する

第三部 中国の靈山信仰から日本へ

——観音と靈地信仰

- 一 長沙馬王堆漢墓出土の帛画はなぜ「T」字形状か
 - 二 須彌山石とは何を表したのか——水源伝説としての崑崙山
 - 三 補論 日本における三山信仰——三山もしくは三峯という構成の根拠は何か
 - 四 水月観音図の創作にどのような先行図様が引用されたか
 - 五 フリア本地蔵十王図と伏魔陀山地蔵図様はどのように成立したか
 - 六 雲乗の十一面観音図様とはどのような意味なのか
 - 七 宮曼荼羅になぜ参詣人が出現したか——普陀山図の影響を考える
 - 八 補論 粉河寺蔵「南海名山普陀勝境圖」と中国における普陀山図の展開
- 第三部まとめ——現実の靈地に伝説の聖地を重ねる

おわりに

図版出典一覧／初出一覧／索引

山本陽子 [著]

なぜ特異な
仏画が
作られたのか

日本中世において数多く制作された仏教絵画のなかで、類例のない図様を持ち、制作当時とは異なる名称で呼ばれたり、別の信仰の文脈で語られてきたりした経緯をもつ、特異な仏画が存在する。

これらはどのような意図で制作され、何を意味しているのか。そして、なぜ多種多様な形態や伝説を持つているのか。とりわけ「童子・死・聖地」にまつわるこれらの仏画や垂迹画を丹念に読み解き、図像的特徴や成立背景、制作意図を明らかにする。

さらに、これらの仏教絵画が制作された時点における、伝承や説話からの影響関係、受容の様相を探る。

美術史学・説話文学・民俗学研究など隣接諸学に寄与する研究成果。

◎ 著者プロフィール

山本陽子（やまもと・ようこ）

明星大学教育学部教授。専門は日本中世絵画史。

著書に『絵巻における神と天皇の表現——見えぬように描く』（中央公論美術出版、二〇〇六年）、『絵巻の図像学——「絵ぞら」との表現と発想』（勉誠出版、二〇一二年）、『図像学入門——疑問符で読む日本美術』（勉誠出版、二〇一五年）、『はじめの日本美術史』（山川出版社、二〇一八年）などがある。

図版289点掲載！

定価 一、〇〇〇円（税込）
本体一〇、〇〇〇円（＋税）
二〇二三年十月刊行
A5判上製カバー装・六一六頁
ISBN978-4-585-37011-6 C3071

書名	部数
物語る仏教絵画 童子・死・聖地 山本陽子 [著]	部
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

定価 11,000 円（本体 10,000 円）

A5判・上製カバー装・616頁
ISBN978-4-585-37011-6 C3071
2023年10月刊行

日本人の読書

古代・中世の学問を探る

佐藤道生 [著]

人びとは何を読み、どのように学んできたのか――

古代・中世の日本において、書物を読み、解釈し、伝えていくことは、限られた人びとにのみ許される特権的な営みであった。

特に中国大陸ないしは朝鮮半島経由で伝えられた漢籍（漢語で書かれた書物）は、国家を支える政治や法、

さらには思想や文化体系を伝える最先端のものとして重要視された。

中国の文化全般を学ぶことを目的とした

これらの学問——漢学——は、国家の制度のなかにも位置付けられ、

それを担う家では、書写・刊行された諸種の漢籍を入手し、独自の学問を形成していった。

書物に残された注釈の書き入れ、来歴を伝える識語、

古記録や説話に残された漢学者の逸話など、

漢籍の読書の高まりをいまに伝える諸資料から

古代・中世における日本人の読書の歴史を明らかにする。

本書ではじめてフルカラー公開する資料

『清涼山伝』○『文選集注』巻七断簡○『文選集注』巻百十一断簡

金澤文庫本『文選集注』巻六十一残簡○『論語』清原業賢書写・加点半

慶應義塾図書館蔵『論語』天文版清原枝賢加点半

『佐保類切』『施氏七書講義』断簡○『佐保類切』『施氏七書講義』残簡

『道德経切』『老子道德経』断簡

著者プロフィール

佐藤道生（さとう・みちお）

一九五五年生まれ。慶應義塾大学名誉教授。専門は古代・中世日本漢学。主な著書に『平安後期日本漢文学の研究』（笠間書院、二〇〇三年）、『三河鳳来寺旧蔵唐暦二年書写和漢朗詠集影印と研究』（勉誠出版、二〇一四年）、「句題詩論考——王朝漢詩とは何ぞや」（勉誠出版、二〇一六年）、「玉葉」に見られる課試制度関連記事の検討」（『変革期の社会と九条兼実——「玉葉」をひらく』勉誠出版、二〇一八年）などがある。

目次

カラー口絵

◎本 篇

第一章 古代・中世日本人の読書

第二章 日本に現存する漢籍古写本——唐鈔本はなぜ読み継がれたのか

第三章 古代・中世 漢文訓読史

第四章 平安貴族の読書

第五章 藤原道長の漢籍蒐集

第六章 藤原兼実の読書生活——『素書』と『和漢朗詠集』

第七章 養和元年の意見封事——藤原兼実「可依変異被行攘災事」を読む

第八章 『論語疏』中国六世紀写本の出現

第九章 平安時代に於ける『文選集注』の受容

第十章 金澤文庫本『春秋経伝集解』、奥書の再検討

第十一章 室町後期に於ける『論語』伝授の様相

——天文版『論語』の果たした役割

第十二章 清原家の学問と漢籍——『論語』を例として訓点と注釈書との関係を考える

第十三章 吉田家旧蔵の兵書——『論語』を例として訓点と注釈書との関係を考える

第十四章 『佐保切』追跡——大燈国師を伝称筆者とする書蹟に関する考察

第十五章 伝授と筆耕——呉三郎入道の事績

第十六章 『古文孝経』永仁五年写本の問題点

第十七章 猿投神社の漢籍古写本——『史記』『春秋経伝集解』の書写者を探る

◎附 篇

第十八章 『朝野群載』卷十三の問題点

第十九章 日本漢学史上の句題詩——『本朝麗藻』所収の積算詩——句題詩の変型として

第二十章 藤原有国伝の再検討

第二十一章 大江匡房と藤原基俊

第二十二章 大江匡房の著作と『新撰朗詠集』

第二十三章 平安後期の文章得業生に関する覚書

第二十四章 『玉葉』に見られる課試制度関連記事の検討

第二十五章 平安時代の詩宴に果たした謝霊運の役割

第二十六章 平安時代の詩宴に果たした謝霊運の役割

あとがき／初出一覧／図版一覧／索引

貴重資料の
図版収録点数
総50超!

定価 13,200 円(本体 12,000 円)

A5判・上製カバー装・
504頁+カラー口絵16頁
ISBN978-4-585-39033-6 C3091
2023年9月刊行

書 名	部 数
日本人の読書 古代・中世の学問を探る 佐藤道生 [著]	部
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

定価 13,200 円(本体 12,000 円)

A5判・上製カバー装
504頁+カラー口絵16頁
ISBN978-4-585-39033-6 C3091
2023年9月刊行

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫〈編〉

改訂新版

図説

書誌学

古典籍を

学ぶ

「書物」という
文化遺産の
継承のために

有史以来蓄積されてきた「書物」は、人間の英知・思想・思考・情感といった精神活動が、最も明瞭に集約表出されたかたちで伝承されてきた、学術文芸の遺産である。
この「書物」は、なぜここにこのように存在するのか——
「書物」との真摯な対話により、過去から現在、そして未来へと連なる人間の知的営みの一端に自らリンクすることが出来るのである。

定価三、八五〇円(税込)

本体三、五〇〇円(十税)

二〇二三年一月刊行

A4判並製カバー装・総カラー・二三四頁

ISBN978-4-585-30010-6 C1500

※本書は『図説 書誌学』(二〇一〇年初版発行)の改訂新版です。改訂新版刊行に際し、誤字・脱字等の訂正を施しました。



I 書物との対話——書誌学研究の視点

はじめに——書誌学とは

第一章 本の姿

表紙の役割／紙墨の表情／書物の形／変化する書物

第二章 本の様々

漢籍と和書／漢字と仮名／文字と絵／コトバとモノ

第三章 本の誕生

誕生以前／自筆本／転写本・影写本・臨写本

第四章 本の流通

版下・校正刷り／翻刻本／摸刻本／伝写本

第五章 版本の時代

宋元版／明清版／朝鮮版・越南版／五山版・古活字版／和刻本

第六章 本の再生

付点・書入れ・批評／校合／入門書・工具書

第七章 書誌学の発達

目録学の発達／版本学の発達／考証学と近代

II 斯道文庫の五十年——これまでとこれから

・ 斯道文庫の五十年

・ 書物の収集と保全

・ 椎本文庫／浜野文庫／安井文庫／垣堂文庫／コレディエ文庫／亀井家学文庫／明治弘教社編纂所蔵書／センチユリー文化財団寄託資料／大曾根文庫／河村文庫／平岡文庫／松林桂月文庫／林泰輔自筆稿本類／ガスパルドス文庫／永島文庫／戸原文庫

・ 斯道文庫年表

・ 斯道文庫蒐書の歴史

・ 出張調査年表

・ 研究事業・研究成果・公開事業

・ 執筆一覧／書誌学用語索引



本書の特徴

昭和三五年(一九六〇)の開設以来、書誌学の専門研究所として学界をリードしてきた斯道文庫所蔵の豊富な古典籍の中から、特に書誌学的観点から重要なものを選出、豊富なカラー図版・解説を掲載することで、書誌学の理念プロセス技術を学ぶことが出来る。

書名

改訂新版 図説 書誌学

古典籍を学ぶ

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫〈編〉

冊数

定価 3,850円(税込)・本体3,500円

A4判並製カバー装・224頁

2023年11月刊行

ISBN978-4-585-30010-6 C1500

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。

東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 FAX03-5215-9025 <http://bensei.jp/>

東アジアの

「孝」の文化史

前近代の人びとを支えた 価値観を読み解く「アジア遊学288号」

雋雪艶・黒田彰〈編〉

中国をはじめとする東アジアの文明の歴史において重要な役割を果たし、かつては東アジアの人々にとって最も重要な価値観、行動規範であった、「孝」という思想と文化。東アジア各国において伝承された「孝」は、歴史や文化的背景によって異なり、様々な形で表象されてきた。考古学の文物や文献および敦煌の文書などの重要な二次的資料にはどのような形で残されてきたのか。孝の文化は仏教とどのように融合して、変化したのか。また、日本の説話、和歌、謡曲、絵画などではどのように表現されてきたのか。社会史、思想史、文学史、美術史など多領域に散見される「孝」という文化が、長い歴史の中で果たしてきた役割を客観的に認識し、学際的な視点から考察する。

雋雪艶（せん・せつえん）

中国、清華大学人文学院外国語言文学系教授。専門は中古古代比較文化研究。著書に『藤原定家「文集百首」の比較文学的研究』（汲古書院、二〇〇二年）、『文化的重写：日本古典中の白居易形象』（清華大学出版社、二〇一〇年）、『日本古代文学と白居易』（共編、勉誠出版、二〇一〇年）などがある。

黒田彰（くろた・あきら）

佛教大学名誉教授。専門は国文学。中世。主な著書に『中世説話の文学史的環境』正・続（和泉書院、一九八七・一九九五年）、『和漢朗詠集古注釈集成』全三巻（伊藤正義と共編、大学堂書店、一九八九・一九九七年）、『孝子伝の研究』（思文閣出版、二〇〇一年）、『孝子伝図の研究』（汲古書院、二〇〇七年）などがある。

定価三、五二〇円（税込）

本体三、二〇〇円（＋税）

二〇二三年十月刊行

A5判並製カバー装・三三六頁

ISBN978-4-585-32534-5 C1310

もくじ

序 ● 雋雪艶
序文 ● 黒田彰

一、孝子伝と孝子伝図

中国の考古資料に見る孝子伝図の伝統 ● 趙超舜の物語攷——孝子伝から二十四孝へ ● 黒田彰
伝賀知章草書『孝経』と
唐宋時代『孝経』テキストの変遷 ● 顧永新（翻訳：陳佑真）
曹操高陵画像石の基礎的研究 ● 孫彬
原谷故事の成立 ● 劉新萍

二、仏教に浸透する孝文化

報恩と孝養 ● 三角洋一
〈仏伝文学〉と孝養 ● 小峯和明
孝養説話の生成
——日本説話文芸における『冥報記』孝養説話 ● 李銘敬
説草における孝養の言説 ● 高陽
元政上人の孝養観と儒仏一致思想
——『扶桑隠逸伝』における孝行言説を中心に ● 陸晚霞
韓国にみる〈孝の文芸〉——善友太子譚の受容と変移 ● 金英順
平安時代における仏教と孝思想
——菅原文時「為謙徳公報恩修善願文」を読む ● 吉原浩人

三、孝文化としての日本文学

漢語「人子」と和語「人（ひと）の子（こ）」
——古代日本における〈孝〉に関わる漢語の享受をめぐって ● 三木雅博
浦島子伝と『董永変文』の間
——奈良時代の浦島子伝を中心に ● 項青
『蒙求和歌』における「孝」の受容 ● 徐夢周
謡曲における「孝」 ● ワトソン・マイケル
『孝経和歌』に見る日本における孝文化受容の多様性 ● 雋雪艶
和漢聯句に見える「孝」の題材 ● 楊昆鵬
橋本関雪「木蘭」から見る「孝女」木蘭像の変容 ● 劉妍

書名	冊数
東アジアの「孝」の文化史 前近代の人びとを支えた価値観を読み解く 【アジア遊学 288 号】 雋雪艶・黒田彰 〔編〕	定価 3,520 円（本体 3,200 円） A5判・並製カバー装・336頁 ISBN978-4-585-32534-5 C1310 2023年10月刊行
ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社
（勉誠出版）

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX ● 03-5215-9025

日本と東アジアの

〈環境文学〉

小峯和明「編」

自然環境と人間社会及び文化との関わりをとらえた文学全般を指す〈環境文学〉。

日本・中国・韓国・ベトナムなどの「漢字文化圏」において、文学は「環境」をどう捉えてきたのか。

文献資料のみならず、音声、身体、芸能、絵画や造型の諸資料も対象にし、

とりわけ四季の形象や隠喩表現をはじめ、

食文化の食材や料理、動植物の生態やキャラクター化等々、

絵巻や画卷、本草図譜、屏風絵、掛幅絵等の絵画表象、

あわせて口頭伝承や身体芸、フィールドワークをも含んだ、

広範にわたる相互の比較検証を行う。

日本と東アジアの〈環境文学〉の問題群を総合的・

体系的にとらえ、自然と人間の二項対比でなく、

「二次的自然」の人工的自然をも対象に、

前近代から近代への架橋をも意識しつつ、

カノン化された所謂「文学作品」主体の既存の文学史や

文化史を書き換え、再編成する。

多彩な領域と様々な方法論から成り立つ

四十一の論考により、

環境と人間の営みとの関係を問い直す

編者プロフィール

小峯和明（こみね・かずあき）

立教大学名誉教授、中国人民大学・高端外国專家。専門は日本古典文学、東アジアの比較説話。主な著書に『中世日本の予言書——「未来記」を読む』（岩波新書、二〇〇七年）『中世法会文芸論』（笠間書院、二〇〇九年）、『予言文学』の世界——過去と未来を繋ぐ言説（編著、アジア遊学、二五九、勉誠出版、二〇二二年）、『東アジアの仏伝文学』（編著、勉誠出版、二〇一七年）などがある。

目次

小峯和明◎序 章

小峯和明◎「序論」〈環境文学〉論の道程——〈環境・景観文学〉への視座

四季・気象と景観

イフォ・スミッツ◎自然不在の王朝文化——平安文学における庭園の一考察

宮腰直人◎幸若舞曲「文寛」小考——〈風〉の表象に注目して

加藤 睦◎「コラム」西行の和歌と自然に関する一考察

渡辺憲司◎江戸〈環境文学〉雑記——野中兼山と井関隆子の小品を例に

沈 慶昊◎朝鮮時代の空間論と自然観についての緒論

福田安典◎園芸書の文学性——『花壇綱目』を中心に

マティアス・ハイエク◎「コラム」江戸時代の環境観の二側面——水土と方位

災害と怪異

馬 駿◎『日本書紀』における祥瑞災異の記載内容の変容

司 志武◎識緯思想からみる水の怪異と王権——水精怪異譚考

大西和彦◎ベトナムの妖鶏

水口幹記◎「コラム」木折れ、屋を築く——災害・災異の表現

フラム・レ・フイ◎人文文学によるベトナムの地震研究

——十世紀から十四世紀にかけての地震を中心にして

染谷智幸◎武士と両班の存立基盤——日本の天災、韓国の戦災

目黒将史◎災害・怪異の歴史叙述——『太平記』を中心に

松本真輔◎「コラム」自然環境の変化と四天王寺移転説

グエン・ティ・オウィン◎前近代ベトナムの諸史料や文学資料から見た疫病神信仰

III 動植物の交感と食文化

金 文京◎象が田を耕す話——舜子孝行譚

北條勝貴◎ドメスティケーションの帝国——養殖されるキツネたち

原 克昭◎「コラム」〈水族〉と〈環境〉をめぐる信仰史・点描——青森津軽地域の俗信伝承から

伊藤慎吾◎お伽草子における物の〈精〉について

塩川和広◎お伽草子の食の風景

伊藤信博◎室町時代の食の文芸と社会環境

樋口大祐◎「コラム」食う「食われる」関係とその「転生」について

郷間秀夫◎「コラム」環境文学と日本本草学、その一例としての「植物妖異」研究

志村真幸◎南方熊楠と安藤みかん——紀南の食文化、柑橘類栽培、森林環境

金 英順◎「コラム」〈於于野談〉にみる食と環境

IV 異文化と環境

鈴木 彰◎「捨かたき八人の命ぞかし」——池田寛親「船長日記」が象った漂流体験

木村淳也◎琉球の説話・歴史叙述と環境——御嶽神名・伝承と〈自然〉景観

李 銘敬◎敦煌文獻「五台山讃」詩群にみる五台境界

王 成◎近代日本の紀行文学における張家口の表象

鄭 炳説◎韓国の風水思想と説話

竹村信治◎「コラム」〈環境文学〉としての仏教——他者をめぐる思惟

V 環境文学を問う

劉 曉峰◎記号・儀式と古代東アジア古代世界

伊藤 聡◎胎内五位説と日本中世の心身論

加藤千恵◎「コラム」ひょうたんの天地——古代中国の長生思想と自然観

田村義也◎空間表象の写実性——近世日本美術とジャポニスムをめぐって

出口久徳◎「コラム」描かれた自然——安野光雅「繪本平家物語」をめぐって

千本英史◎「コラム」環境と建築と

野田研一◎「コラム」私たちは野生について語りえたか？

ハルオ・シラネ◎人間と非人間の互酬性と環境人文学

小峯和明◎あとがき

定価 一六、五〇〇円（税込）

〔本体価格一五、〇〇〇円〕

B5判・上製カバー装・五五二頁

二〇二三年七月刊行

ISBN978-4-585-39018-3 C3090

書 名	部 数
日本と東アジアの 〈環境文学〉 小峯和明〈編〉	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価16,500円（本体価格15,000円）
B5判・上製カバー装・552頁
2023年7月刊行
ISBN978-4-585-39018-3 C3090

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

書物の時代の宗教

日本近世における神と仏の変遷

岸本 覚・曾根原理 [編]

近世宗教文化の
新たなイメージを開拓する。

日本近世の宗教は、
出版文化の発達により大きな転換を迎える。
中世までの写本の時代と異なり、
木版・整版による出版が商業的に発達し、
明治以降の洋式活字出版の時代とも異なる、
一つの時代が形成されたのである。

そのような流れの中で、

仏神のイメージや宗教環境はどのように変化したのか。

民間のカミ、為政者たちが崇める仏神、

そして東照宮を頂点とする国家の宗教体系は、

近世社会とどのような関わりを持ったのか。

書物との関係を射程に入れて、

社会情勢や文化現象の中で揺れ動く宗教の姿を読み解く。

編者プロフィール

岸本 覚 (さしもと さとし)

鳥取大学教授。専門は日本史。主な著書論文に『加知弥神社飯田家資料稿15』(共著、鳥取大学地域学部、二〇二二年)、『旧鳥取藩士安達清一郎関係資料目録』(共著、鳥取県立博物館、二〇二二年)、『表彰』からみた19世紀の日本社会——鳥取を事例として(『歴史評論』84号、二〇二〇年十一月)などがある。

曾根原理 (そねはら さとし)

東北大学助教。専門は日本近世思想史。主な著書に『徳川家康神格化への道』(吉川弘文館、一九九六年)、『神君家康の誕生』(吉川弘文館、二〇〇八年)、『徳川時代の異端的宗教』(岩田書院、二〇一八年)などがある。

目次

序文◎岸本 覚・曾根原理

I 近世の書物と宗教文化

近世人の死と葬礼についての覚書◎横田冬彦
森徹塾『護法資治論』について◎W・J・ポート
六想慈周と近世天台宗教団◎曾根原理
〔コラム〕おみくじと御籤本◎若尾政希

II 『大成経』と秘伝の世界

禅僧たちの『大成経』受容◎佐藤俊晃

『大成経』灌伝書・秘伝書の構造とその背景

——潮音道海から、依田貞鎮(徧無為)・平繁仲を経て、

東嶺円慈への灌伝(伝受の過程)に◎M・M・E・バウンステルス

増穂残口と『先代旧事本紀大成経』◎湯浅佳子

〔コラム〕『大成経』研究のすゝめ◎W・J・ポート

III カミとホトケの系譜

東照大権現の性格

——「久能山東照宮御奇瑞覚書」を事例として◎山澤学

修正会の乱声と鬼走り

——大和と伊賀のダダ押しをめぐる◎福原敏男

人を神に祀る神社の起源——香椎宮を中心として◎佐藤眞人

〔コラム〕東照大権現の本地◎中川仁喜

IV 近世社会と宗教儀礼

「宗門檀那請合之掟」の流布と併載記事◎朴澤直秀

因伯神職による神葬祭(諸国類例書)の作成と江戸調査◎岸本 覚

孝明天皇の「祈り」と尊王攘夷思想◎大川 真

〔コラム〕二つの神格化◎曾根原理

アジア遊学
287

定価 3,080 円(本体 2,800 円)

A5判・並製カバー装・256頁
ISBN978-4-585-32533-8 C1314
2023年8月刊行

書 名	部 数
書物の時代の宗教 [アジア遊学287] 日本近世における神と仏の変遷 岸本 覚・曾根原理 [編]	部
定価 3,080 円(本体 2,800 円) A5判・並製カバー装・256頁 ISBN978-4-585-32533-8 C1314 2023年8月刊行	
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

海外の日本中世史研究

「日本史」・自国史・外国史の交差
『アジア遊学289号』

黄霄龍・堀川康史〔編〕

日本中世史は、日本人研究者による「自国史」研究としてだけでなく、海外においても、

日本とは異なる文化的・学術的背景のもとで研究が進められ、地域ごとの特色を帯びながら独自の発展を遂げている。

この数十年の間、国や地域を越えた学術交流はより一層広がりをみせているが、

各地域における研究視角や背景を踏まえた相互参照・相互批判までには至っていないのが実情である。

本書では、英語圏・韓国・中国・ドイツ語圏における研究の動向、在外研究による経験・知見、参照軸としての日本における外国史研究、

外国語で書かれた近年の研究成果などを通じて、多元的に存在する地域ごとの「知の体系」を照らし出すことで、「知の循環」の実践のための道筋を示す。

もくじ

序論 日本中世史研究をめぐる知の交差 ●黄霄龍・堀川康史

第1部 海外における日本中世史研究の現在

光と闇を越えて——日本中世史の展望 ●トーマス・コンラン

韓国からみた日本中世史——「伝統」と「革新」の観点から ●朴秀哲

中国で日本中世史を「発見」する ●銭静怡

ドイツ語圏における日本の中世史学 ●ダニエル・シュライ

英語圏の日本中世経済史研究 ●イーサン・セーガル(坂井武尊●翻訳)

女性史・ジェンダー史研究とエー・ジェンシー ●河合佐知子

海外における日本中世史研究の動向

——若手研究者による研究と雇用の展望 ●ポーラ・R・カーティス

「コラム」在外日本前近代史研究の学統は描けるのか ●坂上康俊

第2部 日本側研究者の視点から

イギリス滞任経験からみた海外における日本中世史研究 ●川戸貴史

もう一つの十四世紀・南北朝期研究

——プリンストン大学での一年から ●堀川康史

歴史翻訳学とはじめ——英語圏から自国史を意識する ●菊地大樹

ケンブリッジ日本学見聞録——研究・教育体制と原本の重要性 ●佐藤雄基

ドイツで／における日本中世史研究 ●田中誠

「コラム」比較文書史料研究の現場から ●高橋一樹

第3部 日本で外国史を研究すること

日本で外国史を研究すること——中世ヨーロッパ史とイタリヤ史の現場から ●佐藤公美

交錯する視点——日本における「外国史」としてのベトナム史研究 ●多賀良寛

日本でモンゴル帝国史を研究すること ●向正樹

自国史と外国史、知の循環——近世オランダ宗教史学史についての一考察 ●安平弦司

「コラム」中国における日本古代・中世史研究の「周縁化」と展望 ●王海燕

第4部 書評と紹介

南基鶴『가마쿠라막부 정치사의 연구』(鎌倉幕府政治史の研究) ●高銀美

Kawai Sachiko, *Uncertain Powers: Sen'yōmon-in and Landownership by Royal Women in Early Medieval Japan*(河合佐知子「土地が生み出す」力の複雑性

——中世前期の荘園領主としての天皇家の女性たち) ●亀井ダイチ利永子

Morten Oxenboell, *Akutō and Rural Conflict in Medieval Japan*

(モーテン・オクセンボール「日本中世の悪党と地域紛争」) ●堀川康史

Morgan Pitelka, *Reading Medieval Ruins: Urban Life and Destruction in Sixteenth-Century Japan*(モーガン・ピテルカ「中世の遺跡を読み解く——十六世紀日本の都市生活とその破壊」)

●黄霄龍

Thomas D. Conlan, *Samurai and the Warrior Culture of Japan, 471-1877: A Sourcebook*

(トーマス・D・コンラン「サムライと日本の武士文化：四七一—一八七七 史料集」) ●佐藤雄基

「コラム」新ケンブリッジ・ヒストリー・オブ・ジャパンについて ●ヒトシ・トノムラ

【編者紹介】

黄霄龍 (こう・しょうりゅう) ●東京大学東洋文化研究所特任研究員。専門は日本中世史、東アジア宗教社会史。主な業績に『日本中世の地方社会と仏教寺院』(吉川弘文館、近刊)、

Authority and Competition: Shingon Buddhist Monastic Communities in Medieval Japanese Regional Society, *Japanese Journal of Religious Studies* 48.1, 2021, などがある。

堀川康史 (ほりかわやすみ) ●東京大学史料編纂所准教授。専門は日本中世史(南北朝内乱と室町幕府地方支配の研究)。主な業績に『今川了俊の探題解任と九州情勢』(『史学雑誌』二五—二二、二〇一六年)、『室町幕府支配体制の形成と展開』(『歴史学研究』一〇四二号、二〇一三年)などがある。

書名	冊数
海外の日本中世史研究 「日本史」・自国史・外国史の交差 〔アジア遊学289号〕 黄霄龍・堀川康史〔編〕	冊
ご注文先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社
(勉誠出版)

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

国宝「三十帖冊子」

さんじゅうじようさうし

修理から見えてきたもの

最新の仏教学を学ぶために唐に渡った弘法大師空海が、当地の仏教経典・儀軌を書写し、日本に隨身秘蔵してきた冊子本、国宝「三十帖冊子」。第六世守覚法親王の時代より京都・仁和寺にて尊ばれ、伝持されてきた同書は、空海の入唐中の学問のありかたを伝える密教将来の至宝として、また、空海や橘逸勢ほか、多くの唐の写経生がその書写に関わり、かつ冊子のかたちとして最も古い装訂とされる粘葉装（ねんえいそう）の日本最古の例として、文化財としても特筆すべき意義を有している。

国宝「三十帖冊子」は、どのように守られ、伝えられてきたのか。六か年の歳月をかけて行われた修理により見えてきた新知見を多くのカラー図版とともに紹介。さらには、三十帖冊子の伝来と流転、経典読誦の実態、空海の学問と書、非破壊資料紙分析の新知見、文化財修理のこれまでとこれから等、多角的な観点から三十帖冊子」を把握する決定版。

掲載図版点数三〇〇点超！

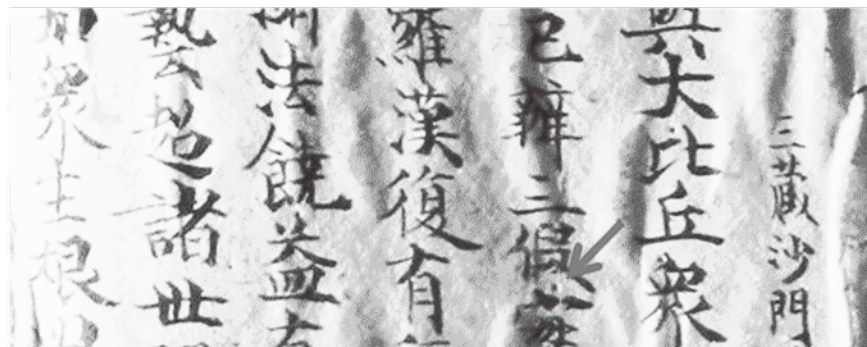
刊行にあたって 総本山仁和寺門跡真言宗御室派管長 瀬川大秀
序言——本書の概要 宇都宮啓吾

第一部 修理・書誌篇

国宝「三十帖冊子」修理報告——修理の概要と調査報告 株式会社松鶴堂
「三十帖冊子」の修理を振り返って 株式会社松鶴堂（書跡担当課 森川洋子）
——保存修理の視点から 鈴木裕
装訂や料紙から見た国宝「三十帖冊子」 赤尾栄慶
コラム 空海の書——唐からの贈り物 銅島稲子
「三十帖冊子」を飾る染織品 山川曉
料紙を観る——写本学と光学的調査からのアプローチ
——石塚晴通・赤尾栄慶・江南和幸・岡田至弘
コラム 文化財情報プラットフォーム
——金剛寺蔵『梵漢普賢行願讃』をめぐる 宇都宮啓吾

第二部 典籍篇

「三十帖冊子」の借覧と返納をめぐる 武内孝善
「三十帖冊子」の仁和寺移動と仁和寺伝持の歴史 朝川美幸
空海将来経論の書写をめぐる
——「三十帖冊子」に関連して 苦米地誠一
仁和寺蔵「三十帖冊子」の訓点から
——観た漢籍訓読の二問題 宇都宮啓吾
典籍保存修理の歩み——昭和から令和へ 鈴木裕



定価 二二,二〇〇円(税込・予価)
本体 二一,〇〇〇円(十税)
二〇二三年一月刊行
A5判上製カバー装・三三六頁
ISBN978-4-585-31012-9 C3015

宇都宮啓吾 編

(つづのみや・けいご) 1966年生まれ。大阪大谷大学文学部教授。専門は日本語学、仏教典籍学。著書に『中世国語資料集』(龍谷大学善本叢書33)(共著、思文閣出版、二〇一七年)、『西教寺所蔵 円測撰 無量義経疏』(分担執筆、東国大学校仏教学術院、二〇一八年)、『四天王寺聖教の世界』(四天王寺宝物館令和三年秋季特別展図録)(監修・執筆、四天王寺勸学部、二〇二二年)などがある。

書名

国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの

宇都宮啓吾[編]

ご送付先ご住所(通信欄)

冊数

定価 13,200円(予価)

A5判上製カバー装・336頁
2023年11月刊行

ISBN978-4-585-31012-9 C3015

冊

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 FAX03-5215-9025 <http://bensei.jp/>

館隆志

〔たち・りゅうし〕一九七六年生まれ。駒澤大学専任講師、曹洞宗龍音寺住職、駒澤大学禅研究所研究員、花園大学国際禅学研究所客員研究員、東洋大学東洋学研究所客員研究員。著書に、『園城寺公胤の研究』（春秋社、二〇一〇年）、『蘭溪道隆禅師全集』第一巻「蘭溪和尚語録」（共編、思文閣出版、大本山建長寺、二〇一四年）、「禅宗入門」（共著、別冊太陽239、平凡社、二〇一六年）、「中世禅の知」（共著、臨川書店、二〇二一年）など多数。

鎌倉時代禅僧喫茶史料集成

禅僧たちの記録からよみがえる 鎌倉時代の喫茶文化

茶の文化は禅と深く関わるものであり、近年はその価値への世界的評価の高まりとともに、研究も盛んになっている。

なかでも茶を日本に伝えた栄西をはじめ、

鎌倉時代の禅僧たちの史料は、

禅と茶を語る上で避けては通れない。

しかし、禅僧による史料は膨大であり、かつ難解なものが多く、これまで体系的な研究がなされてこなかった。

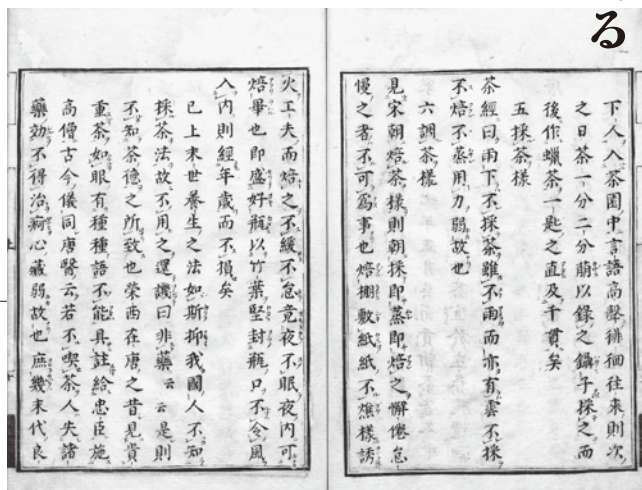
鎌倉時代の禅僧の史料を博搜し、喫茶史料を抽出、

書き下し・現代語訳および訳注、解説を付す。

禅と茶の研究に新たな視座を提供する決定版史料集。

本書の 特色

- ・鎌倉時代の禅僧の喫茶史料を収集して、難解な史料に対して読解と研究の手掛かりを提示。
- ・書き下しを行ない、できる限り語注を付け、読解に資するように詳細な注記を付した。
- ・訳文を付けているので、研究者のみならず、鎌倉時代の禅と茶の関係を知りたいと思う人にも読むことができるものとなっている。
- ・収集した史料を、禅僧の寂年を基本として順に配することで、鎌倉時代の禅と茶の歴史をたどることができるようになっている。



喫茶養生記

（国立公文書館所蔵）
建仁寺開山栄西によって著された日本最古の茶書。

定価 一四、八五〇円（税込）

（本体 一三、五〇〇円）

A5判上製カバー装 七八四頁

二〇二三年二月刊行

ISBN978-4-585-31014-3 C3014

史料収集の 対象とした 禅僧

- 1 栄西（一二四一～一二五二）
- 2 道元（一二〇〇～一二五三）
- 3 蘭溪道隆（一二二三～一二七八）
- 4 月峰了然（生没年不詳）
- 5 元庵普寧（一九八～一二七六）
- 6 円爾（一二〇二～一二八〇）
- 7 無学祖元（一二二六～一二八六）
- 8 大休正念（一二二五～一二八九）
- 9 東山湛照（一二三二～一二九二）
- 10 白雲慧暁（？～一二九七）
- 11 寒巖義尹（一二二七～一三〇〇）
- 12 山叟慧雲（一二二七～一三〇二）
- 13 無象静照（一二三四～一三〇六）
- 14 鏡堂覚円（一二四四～一三〇六）
- 15 南浦紹明（一二三五～一三〇八）
- 16 詮慧（生没年不詳）・経豪（生没年不詳）
- 17 徹通義介（一二二九～一三〇九）
- 18 無住道暁（一二二七～一三二二）
- 19 規庵祖円（一二二六～一三二三）
- 20 高峰顕日（一二四一～一二六六）
- 21 奇山円然（？～一二二六）
- 22 一山一寧（一二四七～一二七九）
- 23 約翁徳俊（一二四四～一三〇〇）
- 24 秋澗道泉（一二六三～一三三三）
- 25 瑩山紹瑾（一二六四～一三五五）
- 26 鉄庵道生（一二六二～一三三二）
- 27 元翁本元（一二八二～一三三二）

書名

冊数

鎌倉時代禅僧喫茶史料集成

館隆志（著）

定価 14,850円・本体13,500円

A5判上製カバー装・784頁

2023年2月刊行

ISBN978-4-585-31014-3 C3014

冊

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

俊頼髓脳全注釈

としよりずいのう ぜんちゅうしやく

定価 一六、五〇〇円(税込)
〔本体価格 一五、〇〇〇円〕A5判・上製カバー装・七〇四頁
ISBN978-4-585-39025-1 C3095
二〇二三年三月刊行家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・
館野文昭・福田亮雄〔著〕古代歌論の総体、注釈および貴族説話のさきがけ、
古代と中世における韻文散文の紐帯を
解明する鍵がここにある。

約半世紀ぶりに書き換えられた

『俊頼髓脳』の完全注釈。

歌病・歌枕など初期歌論書における格式の集成は、
言わば、古代歌論の総集であり、それに続く歌語釈は、
現存最古の和歌注釈で、
かつ『江談抄』とともに貴族説話の嚆矢でもある。

定家本を底本にして

顕昭本・略本系本を対校した本文に、

先行資料および同時代歌論書などの文献を網羅した
語釈を付す『俊頼髓脳』全注釈である。

『俊頼髓脳』とは

源俊頼によって書かれた歌論書。一二二一〜一二二二年成立とされる。
源俊頼は平安時代後期の貴族・歌人。『金葉和歌集』以後の勅撰和歌集
に二〇一首入集。『金葉和歌集』(三十五首)と『千載和歌集』(五十二首)
では最多入集歌人となっている。

凡例

俊頼髓脳全注釈

序／歌の姿、病を避るべきこと／歌の病を避るること／文字数／
歌詠むもの／歌の詠み方――題の詠み方／景物の詠み方／
歌の良しといふこと／言ひがら／似物／おぼろけにては詠むまじき詞／
古歌に詠み増すこと／歌の返し／物の名を言はて、心に思はせたる歌／
歌枕／歌語釈／連歌／歌語釈／歌道への執心／詠歌の遅速／
能因法師の歌人としての態度／歌の良し悪し／
好む者を歌詠みとはいふなり／良暹と経信／跋

解説

《概説》

- 1 『俊頼髓脳』と源俊頼
- 2 本書の本文と対校本について

《論考》

『俊頼髓脳』の構造◎小野泰央
『俊頼髓脳』と後代の歌学書◎家永香織あとがき◎家永香織
索引

著者プロフィール

家永香織(いえなが・かおり)

一九六二年生。立教大学文学部特任教授。著書に『為忠家初度百首全釈』(風
間書房・二〇〇七年)、『為忠家後度百首全釈』(同・二〇一一年)、『転換期
の和歌表現 院政期和歌文学の研究』(青簡舎・二〇二二年)など。

小野泰央(おの・やすお)

一九六五年生。中央大学文学部教員。著書に『平安朝天曆期の文壇』(風
間書房・二〇〇八年)、『中世漢文学の形象』(勉誠出版・二〇一一年)、『創
造するための文章』(真珠書院・二〇一三年)など。

鹿野しのぶ(しかの・しのぶ)

一九七一年生。日本大学非常勤講師。著書に『冷泉為秀研究』(新典社・二
〇一四年)など。

館野文昭(たての・ふみあき)

一九八四年生。埼玉大学大学院人文社会科学部研究科准教授。著書に『中世歌
学知』の史的展開』(花鳥社・二〇二二年)など。

福田亮雄(ふくだ・あきお)

一九六七年生。中央大学非常勤講師。真言宗成就院住職。

書名	部数
俊頼髓脳全注釈 家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・館野文昭・福田亮雄〔著〕	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 16,500円(本体価格15,000円)
A5判・上製カバー装・704頁
2023年3月刊行
ISBN978-4-585-39025-1 C3095

岡雅彦・落合博志・桑名法晃・長田和也・中前正志・那須陽一郎・原雅子・村木敬子〔編〕

深草瑞光寺所蔵

元政上人資料集

近世京洛寺院の学問とネットワーク

17世紀を代表する文人僧として日本文化史に巨大な足跡を遺した深草元政上人（一六二三―一六六八）。その遺業は中世から近世に至る移行期の日本文化の実態を解明する上で詳細に分析されるべきものである。京都市伏見区深草の元政庵瑞光寺にのみ所蔵される元政上人自筆資料を中心に、彼を取り巻く文人たちの写本資料も併せて翻刻紹介。江戸時代の文化・歴史研究のみならず中世文学や日本仏教学とも繋がりを持つ、膨大な新出資料集として日本研究に幅広く資する貴重資料集。

* 深草元政上人（一六二三―一六六八）

江戸時代前期の日蓮宗の僧。

武士の子として京に生まれ、彦根藩士となるも生来病弱のため26歳で致仕出家、その後、深草に庵を結び、46歳で遷化するまでの歳月を、祖師日蓮上人と法華經の教えに従い、戒律を守りひたむきな仏道修業に生きたとして知られている。

幼少のころより古典を愛し、文学の人としても著名。松永貞徳や熊沢蕃山、北村季吟、石川丈山など様々な分野の人びとと交友関係を有し、その多岐にわたる著作は多くが出版され、広く読者を得た。

主要著作に『龍華歴代師承伝』『本朝法華伝』『釈氏二十四孝』『扶桑隱逸伝』『身延道の記』『温泉遊草』『温泉再遊』『元唱和集』『聖凡唱和』『草山和歌集』などがある。

目次

カラー口絵	序文	目次	概説・凡例
一 自筆和歌	二 自筆漢詩・文	三 日記・紀行	四 法語・宗門
五 陳元賛との交流	六 書状	七 和歌・歌学書の写本	八 雑抄
九 目録	十 肖像画賛・絵画	十一 元政追慕	十二 瑞光寺に集った文人の筆跡
十三 元政自筆本尊等	関連年表	あとがき	編者一覧

編者略歴

岡雅彦（おか・まさひこ）
国文学研究資料館名誉教授。専門は江戸文学（咄本・言語遊戯・一休伝など）、書誌学研究。

落合博志（おちあい・ひろし）
国文学研究資料館教授。専門は日本中世文学・中世芸能、日本古典籍書誌学。

桑名法晃（くわな・ほうこう）
身延山大学講師。専門は日蓮教学を中心とした日本仏教学研究。

長田和也（ながた・かずや）
五島美術館大東急記念文庫学芸員。専門は日本近世文学（洒落本など）。

中前正志（なかまへ・まさし）
京都女子大学教授。専門は靈験譚や縁起譚を中心とする日本仏教説話の生態に関する研究。

那須陽一郎（なす・よういちろう）
麻布大学附属高等学校非常勤講師。専門は中世文学の注釈書を中心とした書誌学的研究。

原雅子（はら・まさこ）
千里金蘭大学名誉教授。専門は上代から近世までの和歌・文学の古典注釈通史から賀茂真淵を核に国文学研究。禅哲研究。

村木敬子（むらき・けいこ）
五島美術館大東急記念文庫学芸課長。専門は古典籍書誌学を援用した日本文化研究。

定価 **22,000** 円
本体 20,000 円

B5判・上製カバー装・638頁
ISBN978-4-585-31013-6 C3015
2023年3月刊行

書 名	部 数
深草瑞光寺所蔵 元政上人資料集 近世京洛寺院の学問とネットワーク 岡雅彦〔他編〕	定価 22,000 円（本体価格20,000円） B5判・上製カバー装・638頁 2023年3月刊行 ISBN978-4-585-31013-6 C3015
ご送付先ご住所（通信欄）	部



書物學 22

禅寺の 学問

相国寺・ 両足院の 知の体系

特集

特集

連載

中世日本において禅宗寺院は、大陸からの最新の「知」を伝える場として、宗教のみならず、政治・文化を支える重要な「場」であった。なかでも相国寺や建仁寺両足院は、最先端の五山文学の中心地として、多くの碩学を輩出し、当時の「知」をめぐる状況をまざまざと伝える資料が、いまでも大切に伝持・保存されている。相国寺承天閣美術館にて開催された「禅寺の学問——継承される五山文学」、そして、花園大学歴史博物館にて開催された「両足院——いま開かれる秘蔵資料」の成果をもとに、禅宗寺院が日本文化にもたらした「知」の体系を明らかにする。

相国寺承天閣美術館

「禅寺の学問／相国寺の歴史と寺宝Ⅱ」●本多潤子

相国寺山内プロジェクトとしての『名庸集』●中本大

天啓集仗による近世相国寺一山派の復興

三祖師頂相制作を中心に●本多潤子

相国寺慈雲院本「対馬以町眺望之図」の成立について●米谷均

花園大学歴史博物館「両足院

いま開かれる秘蔵資料」●片山真理子

五山学芸の経済的背景

建仁寺両足院を例として●金文京

以町庵輪番について

両足院・高峰東庵の例を中心に●片山真理子

斯道文庫による両足院蔵書調査について

第二十五番函を例に●堀川貴司

「美術館紹介」相国寺承天閣美術館●本多潤子

「博物館紹介」花園大学歴史博物館●片山真理子

書籍文化史料片々・番外●鈴木俊幸

・浄瑠璃本の流通——抜本表紙に捺された仕入印

書物の声を聞く書誌学入門●佐々木孝浩

松朋堂新収古書解題●佐藤道生

・梵字母略伝〔平安初期〕写

・黙稿 春屋宗園撰慶安三年翠巖宗珉令写

書籍はどう動いたのか——近代書籍流通史料の世界●磯部敦
・改正日本地誌略記問答にみる奈良の売弘人たち(上)
——地域の書物文化環境を調べるために(2)

編集部(編)

定価 一、九八〇円(税込)

本体 一、八〇〇円(十税)

B5判並製・九六頁(フルカラー)

二〇二三年二月刊行

ISBN978-4-585-30722-8 C1000



書名	冊数
書物学22 禅寺の学問 相国寺・両足院の知の体系 編集部(編) 定価 1,980円・本体1,800円 A5判並製・96頁 2023年2月刊行 ISBN978-4-585-30722-8 C1000	冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

東アジアの後宮

伴瀬明美・稲田奈津子
榊佳子・保科季子 [編]

アジア遊学
283

東アジアにおける「後宮」の実像に迫る

皇帝・国君の妻妾が住まい、再生産が行われる場である「後宮」。ドラマや漫画、ゲームなどにもたびたび取り上げられ、今なお人々の関心を集めるが、その実態は、国・時代によって変化し、多様性に富んでいた。「後宮制度」の規範となり、儒教に基づく礼制に即しつつも、理念と現実の間で揺れ動き、また民族や時代によって変化し続けた中国。中国礼制を積極的に受容しつつも独自性を色濃く残した朝鮮。天皇だけでなく武家政権にも「後宮」が設けられるなど、独自路線をひた走った日本。日中韓のみで語られがちな「東アジア」という枠組みを相対化するインパクトを有する大越・琉球。中国、朝鮮、日本やその他の各地域において、後宮のあり方、後宮を構成する人々（妃嬪、女官、宦官など）の制度、儀礼、文化、日常の実態などを幅広く考察し、東アジアの後宮における共通性と多様性に迫る。

定価 3,520 円(本体 3,200 円)

A5判・並製カバー装・344頁
ISBN978-4-585-32529-1 C1320
2023年6月刊行

編者プロフィール

伴瀬明美 (はんせ・あけみ) 大阪大学大学院人文科学研究科教授。専門は日本中世史。主な論文に「女房として出仕すること——中世前期の貴族社会における女房」(総合女性史学会他編『女性労働の日本史』勉誠出版、二〇一九年)、「中世前期・天皇家の光と陰」(服藤早苗他著『歴史のなかの皇女たち』小学館、二〇二一年)などがある。
稲田奈津子 (いなだ・なつこ) 東京大学史料編纂所准教授。専門は日本古代史。主な著書・論文に「日本古代の喪葬儀礼と律令制」(吉川弘文館、二〇一五年)、「納棺・埋葬儀礼の復元的考察」(トウルファン出土随葬衣物を中心に) (佐藤信編『律令制と古代国家』吉川弘文館、二〇一八年)などがある。
榊佳子 (さかきけいこ) 東京大学史料編纂所学術専門職員。専門は日本古代史。主な論文に「夫婦の同籍と片籍」(新川登亀男、早川万年編『美濃国戸籍の総合的研究』東京堂出版、二〇二三年)、「古代における天皇大葬管掌司について」(国立歴史民俗博物館研究報告第一四一集、二〇二〇年)などがある。
保科季子 (ほしなすこ) 関西学院大学非常勤講師。専門は中国古代史・漢代史・思想史。主な論文に「天子の好逑——漢代の儒教的皇后論」(『東洋史研究』六二・二〇二二年)、「漢代の女性秩序——命婦制度淵源考」(『東方学』一〇八輯、二〇〇四年)、「漢代における経学講論と国家儀礼——祝典礼の成立に向けて」(『東洋史研究』七四・二〇一六年)などがある。

目次

- 序言◎伴瀬明美
〔導論〕中国の後宮◎保科季子
Ⅰ「典型的後宮」は存在するのか——中国の後宮
漢代の後宮——二つの嬰兒殺し事件を手がかりに◎保科季子
六朝期の皇太妃——皇帝庶母の礼遇のひとこま◎三田辰彦
北魏の皇后・皇太后
——胡漢文化の交流による制度の発展状況◎鄭雅如(翻訳・榊佳子)
唐皇帝の生母とその追号・追善◎江川式部
〔コラム〕唐代の宦官◎高瀬奈津子
契丹の祭山儀をめぐって
——遊牧王朝における男女共同の天地祭祀◎古松崇志
〔コラム〕宋代における宦官の一族◎藤本猛
明代の後宮制度◎前田尚美
清代后妃の晋封形式と後宮秩序◎毛立平(翻訳・安永知晃)
Ⅱ継受と独自性のはざまで——朝鮮の後宮
百濟武王代の善花公主と沙宅王后◎李炳鎬(翻訳・橋本繁)
新羅の後妃制と女官制◎李炫珠(翻訳・橋本繁)
高麗時代の宦官◎豊島悠果
朝鮮時代王室女性の制度化された地位と冊封◎李美善(翻訳・植田喜兵成智)
〔コラム〕惠慶宮洪氏と『ハンジュンノク』(閑中録)◎韓孝延(翻訳・村上菜菜)
〔コラム〕国立ハンケル博物館所蔵品からみた朝鮮王室の女性の生活と文化——教育と読書、文字生活などを中心に◎高恩淑(翻訳・小宮秀陵)
Ⅲ逸脱と多様性——日本の後宮
皇后の葬地——合葬事例の日中比較を中心に◎榊佳子
〔コラム〕日本古代の女官◎伊集院葉子
日本朝鮮の金石文資料にみる古代の後宮女性◎稲田奈津子
〔コラム〕光明皇后の経済基盤◎垣中健志
摂関期の後宮◎東海林亜矢子
中世前期の後宮——后位における逸脱を中心に◎伴瀬明美
〔コラム〕將軍宗尊親王の女房◎高橋慎一郎
中世後期の朝廷の女官たち——親族と家業から◎菅原正子
足利將軍家における足利義教御台所正親町三条尹子◎木下昌規
近世の後宮◎久保貴子
「三王」の後宮——近世中期の江戸城大奥◎松尾美恵子
Ⅳ広がる後宮——大越・琉球
中世大越(ベトナム)の王権と女性たち◎桃木至朗
古琉球の神女と王権◎村井章介

書名		部数
東アジアの後宮 [アジア遊学 283]		
伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 [編]		
定価 3,520 円(本体 3,200 円) A5判・並製カバー装・344頁 ISBN978-4-585-32529-1 C1320 2023年6月刊行		部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)		

中国古典を どう読むか、 規範からの逸脱、 規範への回帰

下定雅弘〔著〕

古典を読む技法と愉しみを徹底解説

中国の作家たちは儒教倫理とつきあいながら
人間の真実を表現してきた。フエティッシュな表現に男の愛を託した陶淵明の「閑情賦」、
愛する女との別れを語った元稹の「鶯鶯伝」、
女性のすさまじい性欲を描いた柳宗元の「河間伝」など…。

古来、解釈が定まらない古典作品を、

「規範からの逸脱、規範への回帰」という

創作手法を鍵として再解釈。

その真の主題、作家としての姿勢・戦術を解き明かす。

著者プロフィール

下定雅弘（しもぎだ・まさひろ）

岡山大学名誉教授。文学博士。日本杜甫学会会長。六朝及び唐代の詩人、陶淵明、杜甫、白楽天、柳宗元等を専門とする。著書に『白楽天の愉悦——生きる叡智の輝き』（勉誠出版、二〇〇六年）、『柳宗元——逆境を生きた美しき魂』（勉誠出版、二〇〇九年）、『白楽天』（角川ソフィア文庫、二〇一〇年）、『長恨歌——楊貴妃の魅力と魔力』（勉誠出版、二〇一一年）、『陶淵明と白楽天——生きる喜びを詠い続けた詩人』（角川選書、二〇一二年）、『精選漢詩集——生きる喜びの歌』（ちくま新書、二〇一四年）、『白居易と柳宗元——混沌の世に生の讃歌を』（岩波現代全書、二〇一五年）、共編著に『宮内庁所蔵 那波本 白氏文集二・四（神鷹徳治と共編、勉誠出版、二〇一二年）』『杜甫全詩訳注二・四（松原朗と共編訳、講談社学術文庫、二〇一六年）』『朝鮮漢詩古今名作選』（豊福健一と共編著、勉誠出版、二〇一九年）などがある。

目次

はじめに

序 章

『詩経』大序のおそるべき力
——規範からの逸脱と規範への回帰

第一章

曹植「酒賦」——乱れる酒宴の喜び

第二章

陶淵明「閑情賦」

——あなたの靴になって素足を包みたい

第三章

杜甫「数陪李梓州泛江有女樂在諸舫戲為
艷曲二首贈李」「冬狩行」

——妓女や狩獵に夢中にならず、天下の平安にこそご尽力を

第四章

白居易「長恨歌」「李夫人」の「恨」

——万能の皇帝も美女に出逢ったら愛の虜に

第五章

元稹「鶯鶯伝」

——めくるめく愛の喜び、だがこの女とは別れねばならない

第六章

柳宗元「河間伝」——女性のすさまじい性欲

あとがき



書 名	部 数
中国古典をどう読むか 規範からの逸脱、規範への回帰 下定雅弘〔著〕	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価4,180円（本体価格3,800円）

A5判・並製カバー装・248頁

2023年6月刊行

ISBN978-4-585-39027-5 C1098

東アジアの王宮・王都と仏教

堀裕・三上喜孝・吉田歆〔編〕

もくじ

はじめに●堀裕

第一部 東アジア比較史のなかの倭・日本

東アジアの王宮正殿仏事と正統性●堀裕
古代中国の都城と社●吉田歆

宮都における孟蘭盆会の日中比較●内田敦士

考古学から見た古代東アジアの鎮護国家政策の展開と意義●佐川正敏

日本古代の仏都と仏都圏●吉川真司

第二部 百済・新羅と東アジアの王宮仏事

百済・新羅の王宮と寺院●李炳鎬(金玄耿訳)

観音信仰、百済から日本へ——『観世音広験記』を出発点として●三上喜孝

東アジア王宮内仏教施設の比較研究——南朝・百済・倭を中心に●堀裕

七世紀における倭国の苑地と東アジア

——須弥山・呉橋・猿石の思想的背景●仁藤敦史

新羅の月池宮と拝仏・祭祀●田中俊明

新羅東宮の性格に関する一考察●金銀貞

新羅四天王寺の緑釉遺物と「琉璃水波形埴」●金銀貞(金東河訳)

第三部 「宗教の時代」のおわりと東部ユーラシアの王宮仏事

「天書」と「舍利」

——宋代宮廷美術における宗教文物の否定性と意味の変遷●塚本磨充

高麗王室の祖先崇拜と仏教・儒教

——真殿寺院・景靈殿と御容に関する考察を中心に●豊島悠果

盧舍那仏と栴檀釈迦瑞像——北宋・遼と日本の仏身論をめぐって●長岡龍作

契丹の都城・宮廷と仏教●藤原崇人

元の大都における宗教行事をめぐる基礎的考察●渡辺健哉

あとがき●三上喜孝・吉田歆

定価 一三、一〇〇円(税込)

本体 一一、〇〇〇円(+税)

二〇二三年十月刊行

A5判上製カバー装・四八〇頁

ISBN978-4-585-32032-6 C3020

前近代東アジアにおける王宮・王都は、豊かな交流のあり様を示す多くの共通性がみられる一方、時期や地域によって注目すべき大きな相違が存在する。これまで考古学や文献史学により、その諸相が明らかになってきてはいるが、王宮や王都における宗教行事に関する比較研究は、一部の行事を除けば立ち遅れている。六世紀から十一世紀にかけての東アジアにおける王宮と王都の比較宗教史研究を通して、地域や時期における共通点や相違点を明らかにし、東アジア世界における、それぞれの「王権」の特色を示すことで、今後の研究を牽引する画期的な一書。

堀裕 (ほり・ゆたか)

一九六九年生まれ。東北大学大学院文学研究科教授。専門は日本古代史。著書に『仏教がつなぐアジア——王権・信仰・美術』(共編著、勉誠出版、二〇一四年)、論文に「王宮からみた仏教の受容と展開——七世紀から九世紀を中心に」(佐藤文子・上島章編『日本宗教史4 宗教の受容と交流』吉川弘文館、二〇二〇年) など。

三上喜孝 (みかみ・よしとか)

一九六九年生まれ。国立歴史民俗博物館教授。専門は日本古代史。著書に『日本古代の文字と地方社会』(吉川弘文館、二〇一三年)、『落書きに歴史をよむ』(吉川弘文館、二〇一四年) など。

吉田歆 (よしだ・かん)

一九六五年生まれ。山形県立米沢女子短期大学日本史学科教授。専門は日本古代史。著書に『古代の都はどうつくられたか』(吉川弘文館、二〇一二年)、『日中古代都城と中世都市平泉』(汲古書院、二〇一四年) など。

書名	冊数
東アジアの王宮・王都と仏教	定価 13,200 円(本体 12,000 円)
堀裕・三上喜孝・吉田歆〔編〕	A5判・上製カバー装・480頁 ISBN978-4-585-32032-6 C3020 2023年10月刊行
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社勉誠社
(勉誠出版)

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

重要文化財

東福寺

ごひやく
らんす

五百羅漢図

修理と研究

もくじ

刊行にあたって 大本山東福寺 管長……原田融道

図版編

修理後写真／東福寺本・根津美術館本

第五〇号写真／エルミタージュ美術館本

修理工程写真／東福寺本・根津美術館本

五百羅漢図下絵写真／東福寺

第五〇号復元模写写真

各論編

保存修理事業の概要

明兆筆五百羅漢図序論……綿田 稔

五百羅漢図軸木銘文にみる制作と修理の諸問題……石川登志雄

明兆筆五百羅漢図をめぐる諸問題……高橋真作

東福寺の再興と明兆……森 道彦

羅漢供祭文について……日種真子

五百羅漢図修理の特殊性——画期的な合同修理事業を振り返る……岡 岩太郎

コラム編

1 修理前調査にみる現状と修理の要点……竹上幸宏

2 本紙表面からの補綴方法の模索……伊加田剛史

3 解体修理における肌裏紙の除去と永徳二年銘文の発見……小島知英

4 新肌裏紙の色調整について……佐味義之

5 五百羅漢図の復元模写……富澤千砂子

資料編

五百羅漢図軸木銘文集

五百羅漢図関係史料

五百羅漢図修理関係年表

五百羅漢図修理一覧

編集後記……石川登志雄

石川登志雄 〔編〕

（いしかわ・としお）一九五五年生まれ。京都府教育委員会文化財保護課技術職員、京都造形芸術大学芸術学部歴史遺産学科准教授、京都産業大学文化学部教授を経て、現在、同客員教授。主な著書に『平等院鳳凰堂と浄土院』監修及び執筆（二〇一二年）など。



「画聖」と称された
室町期を代表する
絵仏師・明兆の
超大作「五百羅漢図」。

大本山東福寺所蔵の四十七幅及び根津美術館所蔵の二幅についての十六年の長期にわたる保存修理の成果、さらに長らく所在不明とされてきたが、近年、ロシア・エルミタージュ美術館に所蔵されていることが明らかになった第五〇号を大判のカラー図版により掲載。また、調査の過程により見出された新知見、装潢修理における試行錯誤の成果を示した論考・コラム、諸種の資料も収載し、これまでに全貌が未紹介であった東福寺五百羅漢図の研究に重要な材料を提供する。

日本文化史・美術史・仏教史・文化財学をはじめ諸分野に益する瞠目すべき一書！

定価二四、二〇〇円（税込）

本体二二、〇〇〇円（＋税）

二〇二三年十月刊行

B4判変型上製カバー装・二七六頁

ISBN978-4-585-37010-9 C3071

書 名	冊数
重要文化財東福寺五百羅漢図 ——修理と研究 石川登志雄＝編	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価24,200円(税込)

本体22,000円(+税)

2023年10月刊行

B4判変型上製カバー装・276頁

ISBN978-4-585-37010-9 C3071

株式会社勉誠社
(勉誠出版)

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

本文

上巻は尊経閣文庫蔵金沢文庫旧蔵本、下巻は尊経閣文庫蔵建暦三年清寛
加点の奥書をもつ江戸初期の写本を底本とした。
底本の明らかな誤りや欠佚、判読不能の箇所はその他諸本によって補った。
利便性を考慮し、通し番号のほか、返り点・句読点を付した。

通解

原文の理解に役立つ「通解」を掲載。作品には、比喩や見立てなどの
表現を使って詩のイメージをふくらませているものが多数見られる
ので、詩のイメージを損ねないように言葉を選んだ。

春

1 三月三日、侍宴同賦三間柳発紅桃、応製。〔以春
為韻〕 儀同三司

三日花朝和暖辰
紅桃間柳発粧新
烟濃纔透綏山月
黛動半蔵曲水春
碧玉簾中裁錦妓
青羅帳後举燈人
震遊如舊群臣醉
醉意詠歌魏代塵

校異

本朝麗藻諸本との
校異を示す。底本の
本文と異なる場合
はすべて掲出した。

【校異】

底ナシ。群・新・全・紀によって補う。
◇春一私にかりに補う。 ◇応口製一群活・全「応製」。 ◇儀同三司一群・
新「儀同三司」の右旁「伊周」。全「儀同三司」「伊周」。紀「藤原伊周」。
◇後一紀「裡」。 ◇震一紀「宸」。

【訓読】

春
三月三日、宴に侍りて同じく「柳に間はつて紅桃発く」といふこ
とを賦し、製に応へまつる。〔春〕を以て韻と為す。 儀同三司
三日 花の朝 和暖の辰
紅桃柳に間はつて粧ひを發くこと新たなり
烟濃やかにして纔かに透きたり 綏山の月
黛 動きて半ば蔵れたり 曲水の春
碧玉の簾の中 錦を裁つ妓あり

【通解】
春
三月三日、上巳の節句、曲水の宴に伺候し、皆で「柳に間はつ
て紅桃発く」（青柳に交じわって紅の桃花が咲く）の詩題で詩を作り、
勅命にお応えして詠進する。「春」字を韻字とする。

花の咲いている三月三日の朝は、穏やかで暖かな日和で、
桃の紅色の花は、青柳に交じわって咲き、今、新たに化粧をしたばかり
のようである。

夕暮れになって、春の霏が濃くたちこめる頃、そのとたんに桃で有名な
綏山から月が出てきて、柳の間から透けて見える。

揺らめく青柳に半ば隠れて桃の紅色の花が見え、今を盛りとする曲水の
春景色は美しい。

辺りの情景は、あたかも碧玉の御簾の内にあでやかな錦の晴着を仕立て
て着ている舞姫が、かすかに見えるかのようであり、

また、青色の薄絹の帳の後ろで、燈火を持つ人が、ほのかに見えるか
のようである。

このすばらしい宴は旧に復したかのごとく華やかで、我々群臣はみな快
く桃花の酒に酔っている。

この酔い心地、この詩歌を詠む宴は、魏の時代の曲水の宴をそのまま受
け継いでいるのではないかと思われる。

本朝麗藻

（ほんちよう・れいそう）漢詩文集。高階積善撰。全二五四首の詩を収録。春・夏・秋およ
び雑題で構成される。約三〇年間という短い期間の作品を集め、漢文学繁栄の様子を伝
える。天皇・親王主催の詩会を収める一方、山荘や寺院における詩もおおく収録する。

注文書
本朝麗藻詳注
柳澤良一＝著

定価 30,800円(税込)
【本体28,000円】
2023年10月刊行予定
B5判並製カバー装・928頁
ISBN978-4-585-39030-5 C3091

ご注文冊数

貴店番線印

ご送付先ご住所(通信欄)

ご担当者様

紫式部の活躍した時代の男性の文学（漢詩文）を読む。

平安時代の寛弘年間（一〇〇四～一〇一三）、

紫式部や清少納言の時代に編纂された、宮廷官僚詩人の漢詩文集『本朝麗藻』の注釈書。

『本朝麗藻簡注』（勉誠社、一九九三年）を全面的に改訂し、作品の内実に迫ることができるよう、漢詩文の構成や平仄、漢語の「語性」に注意を払って解説した。

本朝麗藻詳注

柳澤良一 著

（やなぎさわ・りょういち）

金沢大学大学院修士課程修了。金沢学院大学名誉教授。主な著書に『本朝麗藻総索引』（勉誠社、一九九三年）、『統撰和漢朗詠集とその研究』（和泉書院、二〇〇一年）、『石川県立図書館蔵 川口文庫善本影印叢書』全三巻（勉誠出版、二〇〇八年～二〇一〇年）、『新撰朗詠集全注釈』全四巻（新典社、二〇一一年）、『和漢朗詠集・新撰朗詠集』（佐藤道生と共著 明治書院、二〇一一年）、『菅家後集の研究』（汲古書院、二〇一二年）など。

二〇二三年
十月刊行

定価 30,800 円(税込)

[本体28,000円]

B5判並製カバー装・928頁

ISBN978-4-585-39030-5 C3091

勉 誠 社